

ソケイヘルニア

腹膜や腸の一部が、多くの場合、鼠径部の筋膜の間から皮膚の下に出てくる病気です。一般に「脱腸」と呼ばれている病気です。初期のころは、立った時とかお腹に力を入れた時に鼠径部の皮膚の下に腹膜や腸の一部などが出てきて柔らかいはれができますが、指で押さえると引っ込みます。はれが急に硬くなったり、押さえても引っ込まなくなることがあり、ヘルニアの嵌頓(カントン)といい、急いで手術をしなければ、命にかかわることになります。ソケイヘルニアの手術には人工補強材が必要なタイプとそうでないタイプがあり、ヘルニアの種類や病状により選択されます。メッシュプラグ法は周りの組織を引き寄せるかわりに人工補強材(ポリプロピレン製メッシュ)で出来た傘状のプラグを鼠径管の口や筋膜の弱い部分に入れて補強する方法です。クーゲル法は形状記憶リングが装着された二重のポリプロピレンメッシュを用いて腹膜を覆うように挿入し、ヘルニア門を後方から補強する新しい方法です。当科では現在ほとんどがこの方法で手術を行っております。手術も短時間で済み再発率は最も低く、術後6時間より歩行が可能です。2泊3日入院を原則としております。NHK今日の健康 2006年11月号「何でも健康相談 ソケイヘルニアを治したい」2008年9月号「何でも健康相談 妊娠前にソケイヘルニアの手術は必要ですか」もご参照ください。

小児 ソケイヘルニア

手術当日に入院していただき、手術の翌日か2日後に退院していただいております。春休み、夏休み等、ご都合の良い時期に手術を希望される方には可能な範囲対応させていただきます。